

第17回 北陸（日本）・韓国経済交流会議

北陸環日本海経済交流促進協議会（北陸 AJEC）業務課長 平 陽一郎

平成28年8月30日（火）、31日（水）に富山市にて「第17回 北陸（日本）・韓国経済交流会議」が開催された。本会議では全体会議、分科会（自治体、ビジネス）、日韓医療クラスター会議、企業視察、歓迎交流会を行い、日韓両国の経済交流がなされた。

会議テーマ：「新たなる50年に向けた日韓関係第一歩の構築」

開催日：2016年（平成28年）8月30日（火）～31日（水）

開催場所：富山県富山市 富山第一ホテル

参加者数：北陸（日本）側 総勢 181名（企業59社）

韓国側 60名（企業24社） 計241名

1. 全体の日程

8/30（火）

韓国側訪問団到着

YKKセンターパーク視察

（韓国側のみ参加）

歓迎交流会

8/31（水）

AM 全体会議

PM 分科会、日韓医療クラスター会議

9/1（木）※韓国側のみ参加

AM 株式会社リッチェル視察

PM 小松精練株式会社視察

中村留精密工業株式会社視察

9/2（金）

韓国側訪問団帰国

「北陸経済の現状と北陸産業競争力強化戦略について」

- ・富山大学 極東地域研究センター長
今村弘子 教授

「韓国人観光客は富山に何を求めているか」

- ・（有）ほっとりハビリスシステムズ
松井一人 代表取締役

「日本最新鋭の高齢者介護事業を韓国で」

- ・富山大学 医学部 緊急災害医学
奥寺 敬 教授

「高齢化時代を踏まえたICTを用いた救急・災害医療トリアージシステムの開発と国際化-韓国との連携による新たなる展開-」

韓国側発表者

- ・江陵原州大 嚴珖烈 教授

「グローバル産業競争力強化のための韓国政府の産業政策推進方向」

- ・（株）和寅 李相俊 代表取締役

「韓・日両国企業の協力事例および今後の協力方策」

【全体会議】

日本側発表者

- ・経済産業省中部経済産業局
波多野淳彦 局長

- ・大邱慶北経済自由区域廳 尹振源 部長
「大邱慶北経済自由区域庁と共に韓・日経済交流拡大に向けて」

【専門分科会】

- 1) 自治体分科会
(参加者：日韓の自治体関係者 19名
オブザーバー参加者 40名)
- 2) ビジネス分科会
(参加企業数：日本 15社、韓国23社
商談件数：50件)
- 3) 日韓医療クラスター会議
(参加者 7名)

2. 北陸（日本）・韓国経済交流会議の開催経緯

21世紀に向けた日韓パートナーシップを更に確固たるものとしていくため平成11年3月、小渕恵三総理(当時)と金大中大統領との間で「日韓経済アジェンダ21」が合意された。

こうした日韓経済関係強化に向けての取組みの一環として、平成11年12月、東京において「第2回日韓官民合同投資促進協議会」を、深谷隆司通商産業大臣(当時)及び鄭徳亀(チョン・ドク)産業資源部長官の主宰の下で開催し、この協議会における協議の成果として、「通商産業省(現：経済産業省)と産業資源部(現：産業通商資源部)との協調の下、北陸地方において『経済交流会議』を開催する」との合意がなされた。

中部経済産業局は、この合意を受け、日韓経済関係の一層の緊密化、及び北陸地域の産業の活性化等を図る観点から、北陸地域の関係機関(国及び自治体、経済団体等)に呼びかけ、これら機関の協力を得て、運営・実施

のための「北陸(日本)・韓国経済交流会議実行委員会」を設置し、「北陸(日本)・韓国経済交流会議」を毎年開催する事となった。

第11回会議から、さらに北陸地域のニーズに根ざした新展開を図る観点から、北陸地域の産官学で構成する「北陸環日本海経済交流促進協議会(北陸AJEC)」が事務局となって実施している。

3. 第17回 北陸（日本）・韓国経済交流会議の概要

韓国訪問団は8月30日(火)に富山空港へ到着し、YKKセンターパーク視察後、歓迎交流会が催された。



久和会長挨拶

翌31日(水)9:30より全体会議が開催された。会議テーマは「新たなる50年に向けた日韓関係第一歩の構築」とし、日韓両国より発表がなされた。

午後より「自治体分科会」、「ビジネス分科会」、「医療クラスター会議」の3つの分科会が開催された。

特に「自治体分科会」及び「ビジネス分科会(日韓企業間マッチング)」は今回初めての試みとなった。

自治体分科会については、かねてより経済交流会議内で自治体同士のコミュニケーショ

ンや情報交換が不十分であるとの指摘があり、テーマを「自治体を中心となって推進した産業振興の成功事例」及び「日本・韓国における高齢者問題に対する各自治体の施策」とした上で、北陸3県と韓国側4地域（慶尚北道、江原道、大邱広域市、蔚山広域市）の自治体担当者による会議を開催した。

特に、高齢者問題については、日韓両国の喫緊の課題となっており、介護分野で一步先をいく日本の施策について韓国側から積極的に質問する様子が見られた。また会議後には自治体同士の交流を目的として、個別マッチングを開催した。オブザーバーなしの場であったためか、フランクに会話されている様子であった。

ビジネス分科会では、以前より韓国側からの要望が強かった日韓企業間マッチングを実施した。日本側15社、韓国側23社が参加し、50件の商談会が行われ、通訳者を介し活発なものとなった。

内容については、情報交換・人脈作りや、韓国企業の技術レベルを理解できたと評価する声がある一方、日韓間の認識のズレも多かった印象があった。韓国側は基本的に日本を輸出先として見ており積極的にセールスする姿勢であった。日本側は、製造拠点として

はASEANに移行しており、今回の面談で「今後引き続いてコンタクトし合う」という案件はあるものの、具体的な商談成立には至らなかった。

4. 総評

今回で17回目を迎えた北陸（日本）・韓国経済交流会議は、北陸AJECが事務局となって以来最多の参加人数（241名）となった。日本の投資・貿易先がASEANへと変遷していく中であっても、隣国である韓国は経済的な結びつきがあり重要な国である。現在の日韓関係は非常に不安定な状態であるが、韓国側事務局である社団法人韓日経済協会 李鐘允常勤副会長がいつも強調される「ウィン・ウイン」の関係をいかに構築できるかが今後の鍵となってこよう。

5. 2017年の北陸（日本）・韓国経済交流会議について

2017年第18回会議は、韓国で開催される番である。現在の処、8/27～8/30の期間で韓国・慶尚北道 安東（アンドン）市にて開催が予定されている。

以上



ビジネス分科会の様子